

讃歌 Sanka

京都九条病院 Communication Book

特集 新しい病院について

マザー・ハート・コミュニティ
の理想のもと、

地域に安心を提供してまいります。

特集 京都市唐橋地域包括支援センター

お互いに支え合い、助け合える
地域ネットワークを目指して。

コミュニケーション広場

健康は毎日の食事から、「医食同源」講座 第11講目
暮らしの中で病気予防「健康ライフ」講座 第14講目
ドクターの「プライベート拝見」数珠つなぎ 第18弾
私の病院自慢あれこれ 第18回

院内散策

第4回京都九条病院
病診・病病連携セミナー



院長 山木 垂水



理事長 松井 道宣

vol.18
2010 Winter
冬号

特集

1

新しい病院について



Michinori Matsui

京都九条病院 理事 松井 道宣

マザー・ハート・コミュニティの理想のもと、 地域に安心を提供してまいります。

平成九年に京都九条病院が新しくスタートして約十三年になります。当初目指していたのは、プライマリーケア、つまり初期治療がきちんが行える病院づくりです。例えば心筋梗塞ならすぐに治療

ができる、動脈瘤の破裂や硬膜下出血なら二時間以内に手術ができる治療まで貫いて行える、そういう高度なプライマリーケアができる病院にしたいという思いから、高度な医療設備、専門的な医療

技術を導入しました。当院は、最新機器を備えた地域の中核病院として十分な役割を果たして来たと自負しています。ところが、この十三年の間に日本では急激に少子高齢化が進み

社会全体が高齢化にシフトしたことから、地域における病院の役割やニーズが大きく変わってきました。もはや、病院は、「病気になる時に治してもらつとこ」だけでなくですすまなくなってきたのです。現在 65 歳以上の方の人口割合は約 21%。高齢者の割合が増えたということは、以前に比べて病気になる人が増え、その分かかる医療費も増加しているということを意味します。国家財政的にも苦しくなってくるので、増え続ける医療費を削減しようという動きも出てきていますが、病気になる人が一定の割合で存在するまま医療費だけを削減してしまえば、病気になる人にきちんとした医療が行えないこととなります。もし医療費が底をついてきたとい

人に、地域に、
そして地球環境にやさしい病院づくりを。

うのであれば、病気になる人を減らさなくてはなりません。そこで予防医学というものが重要になってきたのです。また、治療が終わって元気になる方が元通りの生活を取り戻せる、あるいはそれ以上の質の高い生活、クオリティ・オブ・ライフを確保するためのお手伝いをするのも大切になってきました。老人保健施設や自宅に戻ったあとの療養をサポートするための訪問看護ステーションなど、いわゆる介護、在宅療養や生活機能の向上を助ける分野に取り組みが必要が出てきたのです。つまり、地域の病院には、病気になる前から病気が治った後までトータルにケアしていくことが求められるようになってきているのです。

こうした状況を踏まえ、私たちは地域とともに歩む病院「マザー・ハート・コミュニティ」の実現を目指して、平成十九年から、新・新しい病院作りキャンペーンの取り組みを始めました。今回の増築はその「マザー・ハート・コミュニティ」

「マザー・ハート・コミュニティ」の環境として、療養環境・受診環境の向上、職場環境の改善、さらに地球環境を考えた病院への転換を図ることを目的としています。具体的には、より高い技術を導入し、内視鏡を中心とした検査センターや救急室を

京都九条病院は、母のよき心で病気を癒すことを目指して活動してまいります。
マザー・ハート・コミュニティを理想として活動してまいります。



京都九条病院外観完成予想図(2011年3月完成予定)

はじめ診療部門を充実させるとともに、人工透析室を病院内に設置する、あるいは個室を増やす、トイレ等をバリアフリー化するなど病院内の施設を整理することで分かりやすく利用しやすい環境にしていきます。また、これも治療の一環ですが、リハビリスペースを大幅に拡張する予定です。

在宅支援の分野では、介護される人だけでなく介護をする側の人が問題になっていますが、介護する人にも仕事があったり、持病を抱えている場合もあり、家族だけで介護をすることが難しいのが現状です。そこで、そうした介護を必要とされる方を地域全体で支える

仕組み、医師、看護師、リハビリ、ケアマネージャー、介護福祉士、社会福祉士などいろんな職種の人々が結んで連携して要介護者を支えていく仕組みづくりが必要となってきています。既にわれわれ同仁会グループは、そうした要介護者を支えるための要素として老人保健施設、あるいは通所リハビリテーション、訪問看護ステーションなどを備えています。在宅で介護をしている方が介護疲れで倒れたとき、また倒れる前に休息をとっていただけるよう、いわゆる

予防から介護まで、地域の皆さんの健康づくりをトータルにサポート。

レスパイトできる設備(ショートステイ)を設ける予定です。高齢者は環境が変わると体調も変わりやすいので、ショートステイの利用を躊躇される方もおられるでしょう。病院に併設ということであれば、そんな方にも安心して利用していただけます。ショートステイ用に準備しているのは30室。京都市内全域をカバーします。安心してショートステイを利用していただき、その間に介護してもらわれる方に元気を取り戻してもらって、また介護に励んでいただきたい、それが私たちの願いです。

もつ二は職場環境の改善です。

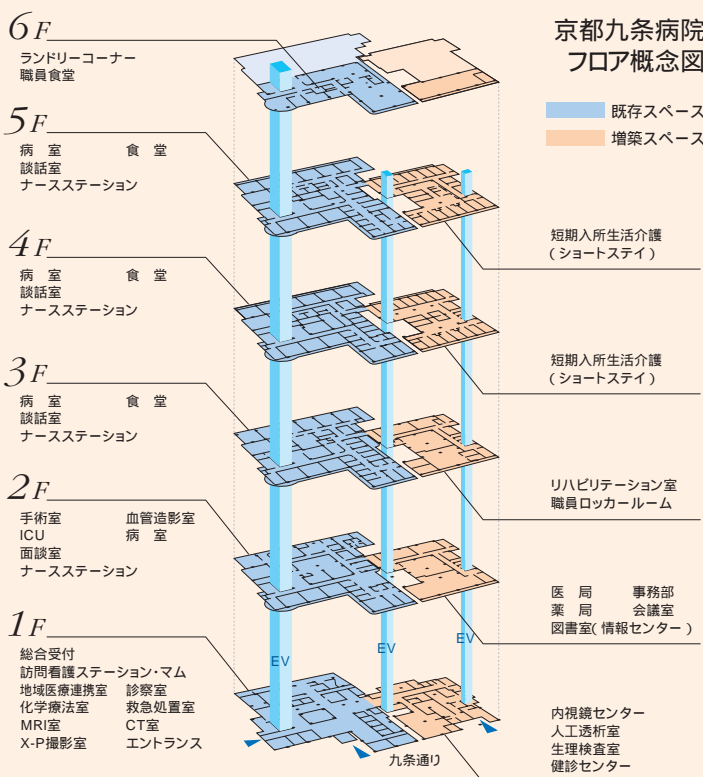
いま、病院勤務者の労働環境が大変厳しいと言われています。勤務医や看護師が疲弊し、このままでは医療崩壊が起ってしまうのではないかと、そんな言葉も聞かれます。これまで病院は患者さんに目を向け、設備を整えてきましたが、そろそろ中で働いているスタッフのために環境を整える時期に来ているのではないかと、そんな思いからスタッフが休憩できるス

ペースや勉強するための図書室の設置、会議室の増設、小さい子どもを抱える職員が安心して働けるような保育施設の拡充などを行うことにしました。できれば病児保育も行いたいと思っています。昨年のようにインフルエンザが流行したりすると、母親は長期間仕事を休まなければならなくなります。せめて軽い病気や、病後の子どもを保育する施設があれば、働く母親はすいぶん助か

「病児保育」とは子どもが病気になるまでまた回復していかないときの保育。

ることでしょう。これも、病院が傍にあればこそできることですから、その利点を十分に生かしたいと思っています。社会的にも働きたい人が働ける環境をつくっていかねばいけませんし、病院の社会的使命としてこれからも女性の社会進出の支援ができるような職場環境を整えていきたいと考えています。

面での改革、改善も進めています。患者さんの話をもっとよく聞き、患者さんのニーズをもっとしっかりと受け止めること、それが私たちの究極の目標であり、京都九条病院の目指す医療です。私たちは常に地域の皆さんとともにあります。予防から介護まで、地域の皆さんの健康をトータルにサポートしていきたいと願っています。



お互いに支え合い、助け合える 地域ネットワークを目指して。



当センターが開設して今年で4年、介護に関する総合相談支援窓口として十分に機能するようになってきました。以前は、相談内容によって窓口が異なり手続きに手間がかかっていたのですが、当センターが出来てからは、ワンストップで相談を受け、適切な機関に繋げていく形に変わりました。ぜひ、相談者の負担が軽減され、利用しやすくなりました。また、医療機関や行政を通しての相談だけでなく、地域から直接寄せられる相談も増えてきています。

当センターの仕事でもっとも大きな比重を占めているのは介護保険サービスのケアマネジメント業務です。私たちは南大内、唐橋、祥豊、吉祥院の4学区を担当していますが、この地域に暮らす65歳以上の高齢者の方は約6,500人。その中で、介護サービスが必要とされている方がスムーズにサービスを受けられるよう、要介護認定の手続きをしたり支援計画を立てるなどのマネジメント業務を行う一方、介護サービスを受けていない方の状況もカルテにして保管し、必要な時には相談に応じています。また最近、要支援者の増大により、行政の方針が「介護が必要になればお手伝いします」

というスタンスから、「介護が必要にならないようにサービスを差し上げよう」というスタンスに変わってきたため、介護予防サービス業務の重要度が増してきました。当センターでは、介護予防の大切さを広めるための啓発活動を行っている他、市民健診で特定高齢者と判断された方が介護予防推進センターで行っている特定高齢者向けの運動や栄養指導などの教室のサービスを受けられるようサポートしています。

見守りネットワークづくりがこれからの課題です

人を支えるネットワークづくりが必要なのです。地域の会合などで積極的にネットワークの必要性をアピールしてきた結果、民生委員や社会福祉協議会との繋がりができ、スポット的には日々の見守りが可能な地区も生まれてきました。今後は、こうした繋がりを自治会や老人クラブなどへ広げるとともに、消防、警察、医療機関などを巻き込んで地域全体を網羅する見守りネットワークを張り巡らしていきたいと考えています。

かつて日本では地域内の繋がりが強く、近隣の高齢者をみながら見守り手助けするというのが自然に行われていたのですが、地域社会の変化により、「隣は何をする人ぞ」という時代になり、高齢者支援は全て介護保険に頼るという傾向にあります。北欧並みに税金を投入するならば行政サービスが全てがカバーできますが、そのためには税金を上げなければならず、若い人たちに多大な負担を強いることとなります。ですから、税負担を増やさないために地域で独居の高齢者や認知症の

まもなく団塊の世代が65歳にさしかかり、高齢者の割合が急激に増加してきます。核家族化の進行で独居高齢者率もますます高まることでしょう。地域包括支援センターが在宅高齢者支援の中心的役割を担っていくことは言うまでもありませんが、センターに相談しさえすればいろんな制度を使って何とかその人を支えてくれるだろう、という他人任せの



京都市唐橋地域包括支援センター
社会福祉士

高木 善史

特定高齢者 65歳以上で生活機能低下のおそれがある方

OUR HOSPITAL CONCEPT

京都九条病院の基本理念

良質な医療を安定的に提供します。
さらに常に最大限最高の医療の提供を目指す
前向きな姿勢を持ち続けます。

OUR HOSPITAL POLICY

京都九条病院の基本方針

- ① 医療は患者さまとご家族と医療者が協同して行うものと考えます。
- ② 「奉仕の精神」を持ち、親切な対応、サービスの向上を心がけます。
- ③ 公平・公正で良質な地域医療を、安定的に提供し続けます。
- ④ 急性期医療に24時間対応し、専門性の高い高度医療を充実させます。
- ⑤ 治療に関する情報はすべて患者さまに開示し、分かり易く説明します。
- ⑥ 最先端の予防医学・健診技術を用い、「地域の人々の健康」に貢献します。
- ⑦ 地域支援の中核として活動し、トータルヘルスクエアを進めます。
- ⑧ 各種研修指定施設として、高い技能を持つ人材を育成します。

「患者の権利」に関する宣言

京都九条病院では、患者さまの個人としての尊厳が守られ、より良い信頼関係の深まりとともに安心して医療が受けられるように、患者さまの権利に関する宣言を掲げます。

- ① 患者さまは、その社会的経済的地位・国籍・人種・宗教・年齢・性別・病気の種類によって差別されることなく、平等な治療を受ける権利を持っています。
- ② 患者さまは、自由に医療機関を選ぶ権利を持っています。
- ③ 患者さまは、十分な説明を受けた上で、治療を受ける権利あるいは治療を受けることを拒否する権利を持っています。
- ④ 患者さまは、医療のどの段階においても別の医師の意見を求める権利を持っています。
- ⑤ 患者さまは、医師ならびに医療従事者が患者さまについて知り得たすべての医療上の情報及び個人的情報が保護される権利を持っています。
- ⑥ 患者さまは、いかなる状態にあってもその人格を尊厳され、また尊厳をもってその人生を全うする権利を持っています。

私達京都九条病院職員は、患者さまの権利を尊厳し、十分な相互理解をもって、患者さまが最善の治療を受けられるよう最大限努力をします。私達京都九条病院職員は、良質な医療を提供し続けるために、常に前向きに努力することを誓います。



平成21年度京都府保健医療功労者等表彰
 12月1日、京都府知事より平成21年度京都府救急医療功労者の表彰を受けました。
 当院は、日本救急医学会が認定する専門医7名を有する二次救急医療機関として一貫して救急医療に取り組み、質の高い医療を提供して参りましたが、今回の表彰を励みとして、これからもよりいっそう救急医療の充実を図り、京都の救急医療、地域医療に貢献していきたいと思っています。

京都九条病院が
平成21年度京都府救急医療
功労者として表彰を受けました。
 当院は、平成21年度の京都府の救急医療に功績があったとして、平成21年



考えてはこれからの超高齢化社会を乗り切っていくけません。制度を使ってできることには限界があり、行政サービス機関だけで24時間見守ることは不可能だからです。実際、地域外からの転入者が多く近隣住民との付き合いが少ないアパートや団地では、孤独死が発生しています。市民一人ひとりが主体となって地域の高齢者を支えていくという意識改革こそが求められているのです。
 私たちの目標は、地域の人々が近隣の高齢者を見守り手助けするような関係を築くことであり、近隣での援助が自然に行われる地域コミュニティの再生です。そのため二歩として、地域ネットワークづくりを支援していきたいと思っています。

「歯の健康相談会」開催

糖尿病患者の方々に歯周病ケアの重要性を知り、実践してもらおうとして、「世界糖尿病デー」の11月14日、京都九条病院「階ロビー」を会場に、京都九条病院、京都府歯科医師会南支部でつくる「糖尿病歯周病プロジェクトチーム」、サンスタール（株）が共催で、「糖尿病患者さんのための歯の健康相談会」を実施しました。近年の研究で、歯周病は糖尿病の合併症の一つに認識されるようになってきました。セミナーには当院の入院患者さんら約30名が参加プロジェクトチームの歯科医師による歯科健診を受けた他、当院江端先生の糖尿病レクチャーなどが行われました。参加者の方からは、初めて糖尿病と歯周病の関係について知った、これからはしっかり歯磨きして糖尿病と歯周病の両方の病気の悪化を防ぎたいといった声が聞かれました。



歯科健診・ブラッシング指導風景



京都九条病院 江端先生の糖尿病レクチャー



2009年11月16日(日) 産経新聞掲載記事



FOOD
for **H**EALTH

健康は毎日の食事から「医食同源」講座

講師:京都九条病院 管理栄養士

尾木 敦子
Aitsuko Ogi



カブとサンマで、
美味しく栄養補給を
してください。



サンマのすり身汁

材料(4人分)

1人分のエネルギー-350Kcal
たんぱく質/20.4g、脂質/24.9g、鉄/1.8mg、
ビタミンB12/18ug、ビタミンC/4.8mg、
塩分/2.4g

- サンマ..... 4尾
- 卵白..... 1/2ケ
- 片栗粉..... 20g
- 味噌..... 15g
- かぶ..... 80g
- 人参..... 40g
- みつば..... 適量
- 昆布..... 20g
- だし汁..... 適量
- 薄口醤油..... 40g

サンマ4尾、三枚に卸し、包丁でた
たき、すり身にする。

にAを加えねる。

かぶ、人参共に5mm程度の厚さ
の短冊切りにし茹でておく。

鍋に、1リットルの水、昆布を入れ
だしをとる。

に薄口醤油を加え、煮立て、
をスプーンで団子にし、入れていく。

に を加え、5分程度煮て、出
来上がり。

寒さがストレスとなり空気
も乾燥する冬本番、体力や抵
抗力が弱りやすく体調を崩し
やすいときです。寒さ対策には
栄養、保温、安静が三大原則
になります。その中でも栄養・
免疫システムをバックアップする
ためには、抵抗力や免疫力を
高める蛋白質、ビタミンC、ビ
タミンAの補給が大切です。

根は、大根によく似た外見
で栄養面でも似た点が多く、
米や芋類の炭水化物を助ける
消化酵素・ジアスターゼやでん
ぷんを分解する酵素のアミラー
ゼが豊富に入っています。煮物
では胃腸を温め、冷えによる
腹痛を防ぎ冬の風邪予防に有
効で、生では弱った胃や食へす
ぎ、胸焼けに効果があり、レタ
ミンCも含まれています。葉に
も豊富な栄養が詰まっています。

良質の不飽和脂肪酸である
EPA(エイコサペンタエン酸)
やDHA(ドコサヘキサエン酸)
がたっぷり含まれていますので
コレステロールを低下させる作
用があり心配なく食べること
ができます。ミネラルやビタミン類
も豊富な栄養が詰まっています。
EPA 血液のなめをよくして、
血栓をよくします。
DHA 脳細胞の成長をうながし、
脳を活性化する働きが大きい。

胃腸を温め、炭水化物の
消化を助ける消化酵素が豊
富で、高蛋白質で栄養価の高
い体が温まる料理をご紹介
します。

NURSING
for **H**EALTH

暮らしの中で病気予防「健康ライフ」講座

京都九条病院

看護部外来

寒くなりましたが、
風邪ひいていませんか？

『寒くなりましたが風邪
ひいていませんか？』この時期
になると診察室でよく耳
にする言葉です。なぜ冬にな
ると風邪が流行するののでし
ょうか？

食生活が偏
っている、疲
れがたまっ
ているといった生
活では、体はウ
イルスに対する
抵抗力が弱まり、
風邪をひきやす
く症状も重くな
りがちです。



風邪の原因となるウイルス
は、寒くて乾燥した冬を好み
ます。逆に私たちの体は冷え
により体力を消耗します。
その上、体が冷えると鼻やの
どの粘液の分泌が減り、ウイ
ルスが体の中に入りやす
くなってしまいます。



風邪の予防としては、まず
は十分な睡眠をとり、バラ
ンスのよい食事を心がける
ことから始めましょう。室内
では、温度20〜25、湿度
60〜80%を保つように心が
けます。加湿器がなければ
ぬれたタオルを3枚ほどハン
ガーなどに掛けて眠るとい
った工夫もおすすめです。
手洗い・うがい・マスクは、

ぜひ習慣にしましょう。
そしてストレス発散に「笑
うこと」。笑うと体の抵抗力
が活性化され、免疫力があっ
ぷすると言われています。
風邪は万病の元！しっかりと
予防して厳しい寒さの冬を
乗り切りましょう。

では、どうして同じ環境で
も、風邪をひく人、ひかない
人、長引く人、そうでない人
がいるのでしょうか？
これは普段の生活が影響
しています。ストレスが多い

風邪の予防としては、まず
は十分な睡眠をとり、バラ
ンスのよい食事を心がける
ことから始めましょう。室内
では、温度20〜25、湿度
60〜80%を保つように心が
けます。加湿器がなければ
ぬれたタオルを3枚ほどハン
ガーなどに掛けて眠るとい
った工夫もおすすめです。
手洗い・うがい・マスクは、





仲間と一緒に流す汗は本当に気持ちが良いですね。



朝のジョギングと
ツーリングで健康をキープ。
夜には読書で
心の栄養を補給しています。



FACE
of DOCTOR

ドクターの「プライベート拝見」数珠つなぎ

京都九条病院 循環器内科 心血管センター長

羽田 哲也先生
Tetsuya Hata



毎朝、約2、3kmのジョギングをしています。友人が糖尿病で入院したことにショックを受け、健康を保つために何かしなければと始めたのですが、もう5、6年になりますね。休むのは雨の日と当直の日だけ。スポーツ好きという訳ではなかったのですが、自分でもこんなに長く続くとは思っていませんでした。友人にも驚かれたのですが、私自身が一番驚いています。最近の楽しみは同じ循環器の医者仲間とのツーリング。とはいえ、メンバーは全国に散らばっているので、皆が集まって走れるのは学会のとさくらい。お陰で学会に出かける時には自転車を持参するようになりました。

多い時には十数人が参加しますし、仲間の懇親の場にもなっています。そのときには40～50kmの距離を走るの、ツーリングが近くなると近所のサイクリングロードに練習に出かけています。

夜は、就寝前に読書するのが習慣、眠気を誘うのにも役だっています。興味があるのは政治、経済、歴史。医学とは関係のない分野の本を読むことが多いですね。以前は本屋で本を探していたのですが、いまは子どもと一緒に図書館に通っています。


LOVE
my HOSPITAL

私の病院自慢あれこれ

京都九条病院のいいところ、
こんなところがわたしたちの自慢です。


病院のここが好き!!

好きな言葉 favorite word
「ポジティブ」
春名 千秋
薬剤部 薬剤師




ドクターや看護師さんとのコミュニケーションがよく取れていて、情報交換がしやすいことですね。それと薬剤部の皆さんが親切なこと。1年半前に転職してきたときも、すぐ環境になじむことができました。また、私は結婚、出産をしたあとも働きたいと思っているので、小さな子どもを抱えながら働いている女性スタッフが多いのも励みになります。まだ病棟に行く機会が少ないので、これからはもっと機会を増やし、チーム医療のなかで積極的に役割を果たしていきたいですね。

好きな言葉 favorite word
「幸せ」
山本 英子
リハビリテーション課 助手



スタッフの皆さんが信念をもって仕事をされているところで。福祉関係の仕事を目指す者として尊敬します。私は働きながら社会福祉士の資格の取得をしたいと半年ほど前から助手としてリハビリ課でお手伝いをしています。ここで働くことで、社会福祉士の実際の仕事ぶりを知ることができ、また、実際に患者さんと触れ合うことで本当に必要とされているものが何か少し見えてきました。この経験を大事に、地域の方々に役立つ社会福祉士になりたいと思っています。

好きな言葉 favorite word
「感謝」
岡田 澄江
看護部看護助手 4階病棟



ともかく京都九条病院には感謝です。職員の方にいい病院だから働いてみたいかと誘われて転職。昨年5月に受けた職員健診で胃癌が見つかったのです。希望すれば様々な検査が受けられるこの職員健診制度が幸いしたのです。すぐ手術を受け、2ヶ月半で職場復帰。長く仕事を休んだにも拘らず皆さん温かく迎えてくださり、こんなに嬉しかったことはありません。自分が患者になったときの気持ちを大切にして、病院に恩返しをするつもりで患者さんに接しています。

好きな言葉 favorite word
「挨拶」
笠井 あい子
事務部 医事課



楽しく仕事できています。転職してまだ2ヶ月。覚えることも多くたいへんですが、皆さんが優しく教えてくださるので大分慣れてきました。受付では、長く利用されている患者さんから反対に教えていただくことも。患者さんは不安を抱えて病院に来られるので、少しでも安心していただけるよう笑顔のコミュニケーションを心がけています。高齢化が進む社会の役に立ちたいという思いから選んだ仕事。志を大切にして地域医療に貢献していきたいと思っています。

第4回京都九条病院 病診・病病連携セミナー

主催 京都九条病院



平成21年12月19日(土)、京都東急ホテルにて、「第4回京都九条病院 病診・病病連携セミナー」を開催しました。(これは、地域医療サービスのさらなる充実を目的として当院と地域の病院・診療所との連携、また当院内のスタッフ間の連携を促進するために毎年行っているものです。)

最初に、山木院長から京都九条病院の2009年を振り返って、DPC(診断群分類包括評価)の導入が完了したこと、オーダーリングシステム 検査処方などすべてをオンライン化する情報伝達システムを導入したこと、日本医療評価機構による2回目の病院機能評価を受け認定病院として再度認定されたこと、京都私立病院協会の感染症チームによる感染症サーベランスで総合A評価を受けたこと、また京都府救急医療功労者として知事から表彰を受けたことなどの報告がありました。続いて、医療法人同仁会(社)介護事業部の稲岡秀陽部長より、「医療法人同仁会(社)の連携と今後の展望」と題して、過去3年間で当院を利用された急性期医療の患者さんの9割が当法人外からの紹介によるものであることなど、当院と地域の病院・診療所と連携

状況を報告。また、京都九条病院の増改築によって地域の方々により利用しやすくなり、且つ在宅で暮らす高齢者の方々をサポートするための設備を充実させたものになることを説明しました。

次に真田佳典生理検査課課長が京都九条病院の感染症対策の取り組みについて述べ、院内に感染対策チームを結成して感染防止マニュアルを作成、院内を巡回してチェックを行ったり針刺し防止安全装置付き器具を導入するなど、当院が感染症を防ぐために実践している方策を具体的に紹介しました。

コーヒープレイクの後、羽田哲也心血管センター長が、虚血性心疾患の最新治療のテーマで講演。急性冠症候群、急性心筋梗塞及び不安定狭心症(患者に対して実施しているカテーテル治療)についての解説や様々な事例を交えながら、当時の苦労話などをお話いただきました。

京都九条病院は、今後もっとしたセミナーをはじめ、あらゆる機会を通して、院内はもちろん地域の病院・診療所との連携を強め、地域の方々が安心して暮らしていけるようしっかりとサポート態勢を築いていきたいと考えています。



医療法人同仁会(社団)
京都九条病院
〒601-8453 京都市南区唐橋羅城門町10
TEL 075-691-7121・FAX 075-691-5311 www.kujohp.com/

医療法人同仁会(社団)
介護老人保健施設 マム フローラ
〒617-0853 京都府長岡京市奥海印寺奥ノ院25-2
TEL 075-958-3388・FAX 075-951-5300 www.dojinkai.com/mam_f/

医療法人同仁会(社団)
介護老人保健施設 マム クオーレ
〒601-8326 京都市南区吉祥院南落合町40-3
TEL 075-691-7755・FAX 075-691-7765 www.dojinkai.com/mam_c/

医療法人同仁会(社団) 京都九条病院
訪問看護ステーション・マム
〒601-8454 京都市南区唐橋経田町16
TEL 075-661-3820・FAX 075-661-3835 www.dojinkai.com/mam_s/

京都市唐橋地域包括支援センター
京都市唐橋地域包括支援センター 介護予防支援事業所
〒601-8453 京都市南区唐橋羅城門町10
TEL 075-692-3368・FAX 075-692-3348 www.dojinkai.com/mam_s/

医療法人同仁会(社団)
居宅介護支援マムステーション
〒601-8453 京都市南区唐橋羅城門町10
TEL 075-691-7200・FAX 075-691-7116 www.dojinkai.com/mam_s/

医療法人同仁会(社団)
同仁会クリニック
〒601-8453 京都市南区唐橋羅城門町30
TEL 075-691-7766・FAX 075-693-6175 www.do-clinic.com/

医療法人同仁会(社団) 同仁会クリニック(併設)
同仁会疾病予防研究所
〒601-8453 京都市南区唐橋羅城門町30
TEL 075-691-5070・FAX 075-693-6175 www.do-clinic.com/yobo/

京都九条病院(提携) 同仁会クリニック(併設)
メディカルフィットネスクラブ SHIN-SHIN
〒601-8453 京都市南区唐橋羅城門町30
TEL 0120-558-756・FAX 075-672-1414 www.e-shinshin.com/